

第98回全国高校野球選手権
青森大会

野西・向井 一発5打点



名農反撃1点のみ

△野西0030061
名農0000101
(7回コールド)
110

▽本塁打 向井(△)
(名) 白板(△)
(名) 白板(△)
(名) 佐藤(△)

▽三塁打 向井(△)
▽二塁打 大池(△)
(名) 佐々木(△) 中野渡(△)
▽暴投

伊藤(△) 白板(名)
▽試合時間 1時間55分
(球審) 三浦、壘審) 北松、木明、沼田
▽野西は三回1死二塁から、大池の左越えで塁打で先制。続く向井が左翼

「八字野西(名農)3回野西、2ランを放ち
チームメイトに迎えられる向井洗雅(中央)
」
＝メイプル

主将が大車輪の活躍

○：野西の3番向井洗雅主将は3安打5打点、自身のバットで得点の半分をたたき出す大車輪の活躍。三回の本塁打は、あまの得意ではない内角低めの速球を捉え、「体が反応してくれた。練習の成果が出た」と手応えをにじませた。
しかし続く打席では「欲を出して長打を狙ってしまった」結果、打球はあわや併殺の遊ゴロに。チーム全体で徹底している「球をしっかり引きつけて打つ」ことを意識し直し、六回には適時三塁打を放った。コールド勝ちにも、向井は「打撃で体が開いている選手が多かった。もっと点を取れたはず」と厳しく評価し、「試合はミスのない方が勝つ。失策をせず、打つべき時に打てるようにしたい」と次戦へ向け気を引き締めていた。

「全てを出し切れた」

○：軟式から硬式に転部とともにチームをつくってきて3年目の名農は選手数、主戦の白板主将は「全てを出し切れたので悔いはなかったが、越後博之監督と「ない」と充実感をにじませ

た。
三回に3点を奪われたが、白板の粘り強い投球と守備で耐える展開に持ち込んだ。六回的大量失点にも気持ちを切り替えず、裏の攻撃で1点を奪い返す意地を見せた。
「少ない人数でよくやってくれた。3年生を褒めてやりたい」と越後監督は感慨深げ。白板主将は「新チームは人数が減って思うように練習ができないかもしれない。それでも力を合わせ勝利をつかんでほしい」と後輩たちに思いを託した。

野西・中道佑哉(今年初の公式戦登板で5回無失点)「緊張したが、3年間の練習とチームメイトを信じ、思い切り腕を振って投げた。守備から攻撃につながるリズムをつくることができました」
名農・佐々木奨(2年ながら4番打者として2安打)「打席目ばかりがちに緊張した。先輩たちに声を掛けてもらってリラックスした結果、2本打てた。自分のバットで新チームを引っ張っていきたい」